

はじめに 天然皮革は、皮革としての特質を有するが、皮革の部位による性能のばらつきが大きい。そこで、衣料としてよく用いられる山羊と豚の皮革について、構成と性能を測定し、部位によるばらつきの程度を表示した。

方法 ヤンピースエードとピッグスエードを用い、厚さ、重さについてはそれぞれ4匹を試料とし、伸長・硬軟・透湿・通気・保温の各性能については2匹分の各部位をそれぞれ測定し、部位による性能のばらつきと、伸長特性については各部位ごとの方向性についても表示した。そして、ヤンピースエードとピッグスエードに対する特性のばらつきから両者を比較検討した。

結果 ヤンピースエードは皮革により厚さのばらつきの傾向が比較的一定しているが、ピッグスエードは腹部分が厚いといわれているが、必ずしも同じ傾向を示しているのではなく、小部分の厚さの変化が見られる。

最大荷重 1500 g/5cm に対する伸長率については、ヤンピースエードは背部位の方向性は小さく、腹部位の方向性は比較的大きい。それに対してピッグスエードはいずれの部位においても方向性が大きく、2匹の豚についてその傾向が一定していない。ピッグスエードは他の性能もほとんど厚さに支配されている傾向である。